

清 軍

策大御馳返 舟汽船超九衝突

事件本道向會

軍長海軍少將

館明次郎

陳述録取書

汽船提丸

筆運醫士 奈良崎庄一郎

右者第十八那那遊艇汽船提丸衝突

事件本回會共ニ注意在ニ通リ陳述

ヲ為レタリ

一 此カ汽船提丸ニ乗組シタリハ大正十四年

九月テアリマシ

一 本年十月廿六日本船ニ第十六那那遊艇

第十八那那遊艇ト姫島燈台附近テ

衝突シマシタカ其ノ當時ノ天候ハ兩

東 三



模倣テ所。晴レテ慮スアリ。視界ハ善
 通テ燈火ハヨリ見エテ好イマシタ。風ハ北
 一位アリ。波ハナク。西侍本航ノ針路ハ東
 微南。而今一南。速カハ。亦部テアーマ
 レタ。

一、私カ對キ船ヲ認メマシタ。ハ午後六時
 五分頃。本船ノ左舷ニ三隻ノ汽船カ
 本船ニ向ッテ進航シテ好イ最初白燈
 カ見エ。回ヌナク。青緑燈ニ替ケテ。其ノ他ニ
 航シ海者燈ヲ見エテ好イマシタ。

一、ソレテ其ノ後進航シテ好イマスト船首約

本明納



点カ四位置、位置ニ来リ時一乗由航ハ急
 ニ汽笛短一撃ヲ吹イテ面航ニ轉航シ
 マレター本航船マ亦汽笛短一撃ヲ
 吹イテ面航ニ轉航シ本船約ニ倍位ノ
 間隔ヲ漸ク船ヲマシテ一其時私ノ
 船首ハ、サウス・ハイ・イーリス位ニ向キ船ハ
 ト間スナリニ乗由航ニ乗由航、綠燈ヲ見セ
 乗由航ト距離ハ本船ノニ倍以下位テ一
 シクカラ私ハ取航ニ林ヲトリ汽笛短ニ
 撃ツツ吹キマストニ乗由航ハ汽笛短ニ吹キマヤ
 ヌテシテカ取航ニトリマレター一乗由航同

原
 録

標本船一艇身アノカナリカ位、距離ヲ
 漸ク船ハリマシテ、ソノト同クナリ、三番船
 ハノ如クカ船首ノ奥正一面一員ニマシタ
 其ノ時距離ハニ三百米位ヲ本船ハ取船
 フトマテ、マシテ、マシテ、マシテ、マシテ、
 汽笛ハ吹カス、面航一杯、西船、機、停、止
 後進ヲカケ、三番船ト一回カニ、同位、同
 位、マシテ、マシテ、マシテ、マシテ、
 カ船尾カ本船、中央カ船、ボート、タビ、
 ノ、同、同、同、同、同、同、同、同、
 突、突、突、突、突、突、突、突、

本
明
納

衝突シテ時刻ハ午後七時三分頃テ
高時船首ハ判リマセ又

對午船ヲ見出高時船長ハ私室ニ居ラ
シマシタカ一番船ヲ解ハルカ解ハラヌP

船橋ニ上ツテ来シ直ニ私ニ代テ操縦
ニ當リ其後ハ全副船長カ操縦セシ

私ハ船橋ノ左舷ニ在テ衝突スルマニ
口ハオサスニ見テ妙リマシ

一番船カ面飛ヲ取ツテ高時所近海面
ニハ何カヤラヌヤマシ

高時本船ハ粉炭ヲ使用シテ妙リマシ

リカラ煙ハ相高
出テ煙ハミタカ
其ノ方一操縦カ思フニ
仕カセヌト云フ
アトハア
マヤメテシテ
一駆逐艦ハ煙ハ
出シテ煙ハ
マヤメテシテ

對中駆逐艦ヲ察見シテ
際其ノ事ヲ
知テ一ニ居テマ
ヌメテシテ其ノ
理由ハ別一
一リーマヌカ
廣イ指面テハ
一航反航
シテ煙ハ一
テア
マスカラ
艦ヲ
ハ
火
四
セ
ヌ
ナク
其ノ
係
連
艦
ヲ
シ
ハ
ヨ
イ
テ
對
中
艦
ヲ
ハ
解
ハ
シ
ハ
ヨ
イ
ト
思
フ
カ
ラ
テ
ア
リ
ア
ス

短一機ノ汽笛ヲ
聞イテ時一
乗由艦ノ紅燈

本
明
納

神ノ

ヲ見テノテアリマシテ其ノ時ノ距離ハ一哩

カソレ以下テアツタト思ヒマス

本船ノ飛ハ動カハ蒸汽機テ船ハ其ノ直往ニ

尺位アリ一杯取入ノニ三回以上廻リナケレ

ハナリマス

今カラ考メテ見マストあ時三葉の船ノ取飛

カ目取ルし早ク利イヨナラハ折標ニ衝突スルコ

トハナカマドト思ヒマス

右録取ス

大正十五年十二月九日

水兵防備隊

某年某月某日 某地 某事

本館

未定 長海軍 大將 館 明次郎

本
明
納

陳述録取書

第六駆逐隊第八駆逐艇長

海軍少佐

猪瀬正盛

右者第八駆逐艇汽船艇丸衝突事件

査問人曾ニ於テ注意尤ノ通リ陳述スル

一 本艇ト汽船艇丸トカ本年十二月廿日

衝突スル由侍候橋ニ接スル

エリマシテハ午後五分頃テ其

ノ時、直直侍候、海軍大尉越智長

太郎テアリマシ

一 本艇ノ橋上ニテ同タテリ本艇ノ首右約

千度距離約二千米、地兵ニ緑燈ヲ
 掲ケテ反航スル汽船ヲ一隻見ナマシタカ
 別ニ危険ナク對勢アリキナリ、其ノ後進航
 方レシニ、軍事ノ航過ヲヘヤ状態ニテアリマシ
 シ、度々同早ニ分煙ニ一掃航カク急ニ面
 飛ニ轉航シマシタリテ不審ニ思ヒテ、持リ
 マスト高直特救カ面航ヲ取りマシカドト
 燈同シマシタリテ、私カ高直特救ニ代シテ
 操縦ヲ教シマシタリ、私ノ手トシテハ、一掃
 航カヤ何カ人カソレニ依リテ決メテ、持リ
 持リマスト同テナリニ、一掃航カ面航ニ轉

本
明
納

一番艦ノ航跡ヲ入リマシテカラ私ヲソレ
 ニハント法心シ五百米走テ差針スル
 フトニシテ六時四十九分差針ノ時概ニ東
 マシタリテ面航ヲ取リマシタリ
 最初見エテ折リマシタリ反航ノ汽笛カ
 見エテナリマシタリカ突然一東由航ノ
 艦尾ニ船首ヲ出し其ノ紅燈カ見エ
 マシタリ私ハ以テ燈ノヲニ東由航ノフォード
 マシタリ思フタ位テアリマスソレテ私ハ其
 ノ際航進ヲ止ム諸船ニ接近シテ危険
 ヲ生ラント思ヒマシタリカソレテ避ケン考テ

面航一杯、西航機停止、後進原運ヲ
 令ニマシタ、紅燈ヲ見テカク、後進原運
 ヲ撤シ、送ニ秒カ五秒位カカシ、カカシ
 マス、斯クシテ、カニ本航機ハ右ニ回頭ヲ始
 ノニ番航機ハ左ニ回頭シ、汽船ハ本航機ニ
 衝突スル様ニ與直ニ進航ニテ来マシタ
 我ハ何トカシテ、其ノ汽船ヲ、解ハシ、ウツト
 思ヒ、前途ニヤウナシ、年令ヲ、おシ、メ、ノ、テ、カ、リ
 マス、カ、傷、テ、調、ヘ、テ、見、マ、ス、ト、私、カ、余、令、シ、テ、
 後進原運ニ、テ、シ、ク、テ、高、速、由、ハ、カ、ケ、ト、ト、ハ、
 申シ、マ、ス、カ、其、ノ、事、カ、機、関、部、ニ、通、シ、テ、

本明報

姑らナカソリアトカラ考ヘテ見マスト或ハ
 テレリラフレ由来由カカケナカソリマノ思
 ヒマス人係ニ其ノ由時私ハ長孫ナアトハ
 マヌテレリカラ船カ震動ニソリテ後建
 カ利イヨモト思ツテ姑マコソリ其ノ
 由汽船ハ岩々接近シテ其ノ後進原
 連ソカケテカラ凡ソノト半位シテ頃思
 ヒマスカ汽船ハ急燈ヲ見セ船尾ヲ約一
 位振リ本船々首ニ向テ接近シテ来マシ
 シカラ私ハ頭ヲ取ラシテハ大變ノ思ヒ
 セシ合シ結イテ取船一杯ヲカケマシ

其ノ時彼飛ノ船首ハ石トスレタニテ
 一レソコ私ハ大聲テ船ハソノト叫
 ニスト前甲板ニ有テ掌ノ水雷長カ船ハ
 リマソリカハ瞬間ニ本船ノ船尾ヲ以
 テ對牛船ノ大船中央部ニ衝突シテ
 シテソレテ同船ハ浸水沈下シタルニ
 テ各船カ探照燈ヲ照ラシテ一ニ雷船
 カラトボトシテ降口シ其ノ乗員全部ヲ
 救助シマシキカ汽船ハ遂ニ沈没シテ了
 ヒマシキノ時彼飛船トモ北傷者ハ一名
 ニアリ一モモアセリ

本
明
納

私カ面舵一杯西船様停止後進原速

ヲ令シテカラ 固テナク 汽船ハ 汽笛程ニ

警ヲ如ク 田テアリヌカ 我ハ 四五年来

前カラ 長ノ耳カ 悪ク 一時ニ 尺ハ 並白御書

素ハ 汗ソシテ 固キトカシク 三カ 出来ヌカニテ

汽笛ハ 南ヨマヌテ 此リカ 出テ 水 留長ハ

廿ノ 汽笛ヲ 固キ 警ニテ 前 甲板ニ 出テ

来ドトノ 事トテ アリマシ

衝突時、船首方位ハ 利リマセヌカ 約北

テハ 十カ 引カト 思クマシ 一 乘由 船ノ 陰カク

知ナテ 汽笛ノ 紅燈ヲ 是ノ 時ノ 船首方

佐ハ女ナキ度西距離ハ三百米内外ナ

トリーマシテ

一乗由船ハ是針ハ約四百米カ至ナキ位

ト思ハス

ニ乗由船カ取船ヲ取ソシハ判ルニヤヌテ

シテカ所船ノ紅燈ヲ見テ待ニ乗由船

ハ取船ニ逢シテ取リマシテ一面船ヲ

取テ一乗由船ノ航跡ニ入テハヨク右シテ

取リマシ

本船ハアブゾードマークハ正想ノ通ナリ

ナリト取リマシ

本
明
納

一 妾對之際妾對信柳ハマリマシタリ五時
早分此メ十五度西ニ定新レリ時ニ信
柳ハ致シマシタリ

一 本秘トシテ使ノ場合如何ナル方由ヲ探シ

ラトヨキカニ就キトテカク考メテ見マスト初ナ

レ時早分ニシテ米、此点ニ於テ汽船ノ

反航ヲ認メタリ時私、考トシテト花ニ遊ケ

ヤウト思ツヨ、トテア、マスカシレハ余ノ早一快

ノヤウノ思ハレマシタリト 同時ニ對テ船ハ右

ニ其ノ反航進リハキート思ハレマシタリカクニ番

船ノ動止ヲ見テカク決ハレマシタリ直時

洋 軍

校カヲ操縦ヲ凌取ゾリテアリマスカ
 校ノ際カニ進ミテカニ進ムト全然衝突
 ンカカニ進ムト思フカカニ進ムト
 テハ也何事ノ方性ヲ知ラズヤ
 高島詩ノ對キ始トシテハ私カ後進原速
 ヲカケシ詩速カラ減シテ其レハカ
 カケシ詩速カラ減シテ其レハカ
 衝突ハヤリニ降レタカト又思フ
 衝突後司令馳進ハ一集ヨリマシ
 際ノ語ニ依リマス司令ハ高島詩
 中ニ所ニ在リシ時五十分頃一通信長

本明納

海軍省
資料部

カ持ッテ来タリ其電ヲ見ルハ一ノ船橋ニホ
 ラリ時テ其ノ際船ハ水雷長カ操縦シ
 テ停ル傍ノ船長ニ對シ燈ヲカ定マリ
 一テ右ニ避ケマシタカト尋ネテ見ル處船長
 ハ前首ノ窓硝子ヲ開ケヤス眼鏡ヲ使
 用スルニテ前首ノ見船燈ハ見立ナカシカ
 前路ヲ右ヨリ充ニ横切ンタト判断シ面
 飛ヲ取シト命ジマシメ其處ノ司令官カ去
 ラシ後船ノ接近ニテ後ノヲ見ラシ直ニ兩
 船ヲ停ル止ラシ命ヲラシ船長ハ其處ノ面
 飛ノ杯ヲカヤラシテトテアリアンナリ

海軍

此時一軍の艦長は對午砲の對之危険
 視せしる司令官葉電ヲ南一テ告ラシ
 シトモテアリマシク 為ニ一軍の艦トシテハ
 一軍の艦ノ面能轉飛カ不可解テ或ハ淺
 船ヲ逃避シ人方ニ一時的一面能ヲ取テテ
 テハナリカト思フ也。由テアリマシク
 右艦取ル

大正十五年十二月九日

外兵防備隊

第十七師團砲艇汽船根丸衝突事件

本回調査

本明納

1300

平文長篇軍書

餘
明
治
三
十
年

書

三

陳述跡取書

第十八號駆逐艦

海軍大尉

越智長太郎

右者第十八號駆逐艦汽船艇丸衝突事
件査問會ニ於テ注意尤ノ通り陳述
ヲ為シタリ

一 本艦汽船艇丸ト衝突シテ由時

ノ天候ハ曇リテ微雨アリ雨量十位視界

ハ熱玉湿度アリ風力三乃至四風向東

テ海上稍荒レテ岸マシ

利ハ同日午後六時三十分カラ西直テ同

三十五分航海長カヲ操縦ラテ取リ
 マシテ六時四十分航長カヲ操縦ニ来
 ラシテ其ノ前々分隊長カヲ来ラシマシテ
 航橋ニ在リ外信仰共ニ名運カ標
 由由ニ名操航長一名テシテラフ由
 由一名河野中一名計メ名カ増
 マシテ
 一 和カ前々分隊者トテ代シテ時即チ午
 後六時五分ノ地位ニ姫島燈台ノ北
 方度西三十五度ヲ射路ニ北七十五度西
 運カニテ四節テマシマシテ

高待原

一 五代時前、高直者カラハ前洋船ノ航
 跡ヲ約三百米、回障ニテ進ノ方船
 一 莫ニ汽船カ何カ判ラヌカ燈火ニ回見
 二トノ申経コト度トマシテ、高待原
 船トノ回障ハ約三百三十米位テ船橋
 一 碇ヲト取原ヤ双眼鏡ヲ投ヘ見飛
 三ニ特ニ注ク意ヲ以テテ、極マニシテ、全
 道ハ必港前、船長カテ、後ニテマシテ、
 一 汽船カ反航スルノツ見タム、古時四
 分頃即チ船長カ来ラシテ、回マナリテ
 眼鏡ヲ見マシシ、處、綠燈カ見コマシシ

五押

洋 貨

其ノ方位ハ右約ニ千一度距離ハ二午
 米位アリ以テ、供進航路ハヨイト思ヒ
 マシテ、高崎各船、向隔ハ一馬由興
 トニ馬由興カ三百五十米ヨリヤハレ近ク位
 ニ馬由興ト三馬由興トハ三百十米位アリマ
 シテ、
 高崎附近海面ニ想ハズ外也、航行
 船ハ一マ由興トヤマシテ、
 一馬由興カ、轉航シテ、時刻ハ汽船カ及
 航シテ、短クニトカ利ハテカラニ分位シテカ
 ラテ、即チ、高崎四十ニ分位ト思ヒ、

私、存、艦、三、本、年、十、一、月、八、日、軍、機、下、列
カ、ヲ、特、系、ト、シ、マ、シ、タ、リ

加録取ス

大正十五年 十二月九日

水兵防備隊

第十一師 駆逐艦汽船 趙丸 衝突

事件 本出 同人會

水兵員長 海軍少将

齋 明 治 印

海 軍

陳述 駆逐艦

第十駆逐艦

海軍 校尉 中尉 大道 友雄

右者 某十八 號 駆逐艦 汽船 槌丸 衝突 事
件 査問 會ニ 於テ 注意 有リ 廻リ 陳述 ラ
為レタリ

一 本 艦カ 汽船 槌丸ト 衝突 シテ 高 待 私

ニ 概 用 宜ニ 持リ マシリ カ 西 艦 校 停

止カ 東テ カラ 後 進 原 速ニ 東マセテ シリ

西 艦 校 停 止カラ 衝突 迄ノ 待 間ハ 三十一

秒 内外ト 思フ マリ 其ノ 時ハ 空 艦ニ 回 転 致

陳述

二刊
一七二

右録取

大正十五年五月九日

外兵防備隊

築土八洲駆逐艇汽船艇九衛突

事件並查詢會

兼支隊長海軍少将

館

明治

出

目

陳述跡取書

某十八卿駆逐船

海軍少曹長

吉田長三郎

右者某十八卿駆逐船汽船楳丸衝突事

件本並同會ニ於テ注意尤ノ通リ陳述ニ方

シタリ

一 本船カ汽船楳丸ト衝突ニシテ凶特

前甲板ニ於リマシタリ

一 衝突前 本船ニ於リマシタリ是ニ於テ

汽笛短ニ聲ヲ南キマシタリテ驚カシテ

前甲板ニ上リテ見マスト汽船カ紅燈ヲ見

右跡取

ヲフ本船、直前僅リ千回位、近距離
 フ船着リ本船、一乗由煙突附近ニ回テ
 進航シテ、折リヨシクテ、己テハ煙突ハ到底
 避ケ得イスト思ツ、折リテ、船長カ取
 飛ノ杯ヲ合セテ以テ、船ハツクカト叫ハレシ
 ヲ、其ノ時汽船ハ僅カ五尺位、間隔ヲ漸
 ク狭クシテ、マシクテ、折リテ、船長カ取
 ハマシテ、カ以テ、折リテ、音カレ本船、
 船尾カ對テ、船腹ニ衝觸シ、マシク、

大正十一年十一月九日

本明細

水兵防備隊

第十七号駆逐艦汽船樵丸衝突

事件査由會

海軍少将 吉田 明次郎

海

軍

手割原

10

1311

陳述録取書

第十八那那逐艦

海軍二等兵曹 沼田敏男

右者第十八那那逐艦汽船提丸衝突事
件査問會ニ於テ注意尤ノ通り陳述シ

タリ

一 本艇ト提丸トカ衝突シテ出待私ニ標

提キマシテ居リマシテカ高時提丸取

提一杯ニ取リツ、アツク提丸取提ニ

十度ニテツテ提丸末リ三十度ニテラヌ

前テ衝突シテマシ

陳述録

一 衝突レテ 時狭首ハ止マツテ 漸ク取舵
 カ利イタカトセテ 時テ或ハ止レ位ハ
 ツテ 船リカマ 和レマセヌカソレト大シク フトハ
 ナイト 思ヒマシク
 一 本船、舵ハ 舵中 夾カラ 面舵一杯 取ルマ
 テニハ 船ヤ 秒位 カカリマ
 一 私カ 汽船、綠燈ヲ 見マシク、ハ 一番 船
 カ 面舵ヲ 取ラヌ、以 前テ 南直 將校カ
 眼鏡テ 見ラレシ、後 肉眼テ 見マシク
 一 汽船、汽船、汽船カ アルコトヲ 知リマシク
 一 衝突、前私ハ 船長、面舵一杯、今ツ南

海軍

キミレリテソレヲ復唱ニツ、
燭イテ西舷機停、
合ヲ聞キミレリ、
右跡取、

大正十五年十一月九日

水兵防備隊

第十八號驅逐艦汽船提丸衝突

事件本並同會

水兵員長海軍少將

館 明 治 寺

海軍

陳述録取書(第二回)

汽船提丸

船長

松本痛市

右者比第十八號駆逐艇汽船提丸衝突
事件本並同人會ニ於テ注意セラル
述ラカレシリ

一 最初一番駆逐艇カ右ニ転航シ本船ニ
近接シタ時先ニ進マテカマシテ
速イ本船カ速カノ速イ駆逐艇ノ前
ヲ横切リテ下向テ先陳ト直感シ
リカテ對午艇ノ紅燈ヲ見テ回マナリ

陳述録

左松殿 一ノリテアツク

一ノ番 殿 遊 舩 ヲ 避 ケ ト ヤ 尚 一 層 早 ク

面 舩 一 杯 ニ 取 ソ ヲ 幸 ヒ 一 番 舩 ニ 三 番

舩 ニ モ 危 障 カ サ ヤ リ テ 済 ム 幸 テ ア リ

ア リ シ カ 尚 侍 紅 燈 カ 見 エ テ 誓 キ 直

ニ 面 舩 一 杯 ヲ 取 ヲ 出 渡 テ ア リ

一 舩 列 ノ 間 ヲ 突 切 入 ト 幸 ア リ 甚 タ 乱 暴

且 葉 礼 ナ 仕 業 テ ア リ 又 最 ス 危 障 ナ 事

ア リ シ カ 尚 侍 ニ 三 番 舩 一 緑 燈 ヲ 見

リ ト キ 一 判 断 ハ 同 侍 ニ 三 番 舩 ノ 緑

燈 ヲ 持 リ シ ハ 面 舩 ヲ 危 障 ト 認 メ 又 三 番

五州原

五州原

1316

此カ一番船ノ航跡ヲ進ニモテト断
 判断ニ取舵一杯ヲ揮イテモソ以テ
 テ艀列ヲ横切ルトカ突切ルトカノ意思
 毛頭ナリ恠然大標ニナソム一テア
 一番船ヲ艀ソシ時直ニ後退ニシテ
 ハ万事ノ葉事テアソテ誤ラリニカニ
 番船ノ過海中ニテ節程ニテ停止
 後進ヲ令ジシコトノ理由ノ一番船ヲ
 停止スルハ船カ利ナリナルコトヲ
 考ヘテニ番船ヲ停シ人ノ一ニテ次
 第テア一ノ血ニニニ番船共線カ見

海軍省

ロテ塔一マシタ故 取鏡ヲ遠高ト思フ
ヲ法行レシマシテ 三番舳、紅ヲ見タリト
三番舳ヲ察シテ直リテマシマシ

海圖ニハ方位ニヨリテ位置ヲハレタマハリ

一又

一 停止後進ヲ命シテカヲ平洋ハ十五枚位テ

奔節ニマシ、由時後進全速奔節後

四十枚位ハカカツテ兼思ハシマシ

一 本船ノ檣燈及西舷燈ノ位置ニ高平等ハ

尤ノ通リテマシ

檣燈甲板ヨリ高十 約四十一呎六寸

5月1日

水面ヨリノ高サ 約四十四呎六寸

西舷燈甲板ヨリノ高サ 約十五呎六寸

水面ヨリノ高サ 約十七呎六寸

増掲燈甲板ヨリノ高サ 約五十四呎六寸

水面ヨリノ高サ 約五十六呎六寸

本船ノ燈火ハ電カヲ使用シ百ワルトニテ

アンペアテニ基ノ弁動機ヲ据ヒテ作り其ノ

莫燈數ハ檣燈ニ四 舷燈ニ四 船尾

燈一四 又土何テ孰クニ一 檣老ノ電球

ヲ使用シ高士官室×四 料理室一 四水

火夫室×四 倉庫ニ四 陸道ニ四 便所

五

ナリシトシ外ニトカ出葉ハ其終ニシテ持リ

マシテビルヂノ穴ニ輪五個カク回リ其ノ

形橋田形ニシテ長イ方ニ至五寸位アリ

マシ石炭出ナロイ穴ニ縦三尺横二尺位ノ

積甲形テアリマシ

一 沈没ノ状況ニ付前部ヲ突クニ沈没シテソコ

トカラ推定シマシト汽機室トニ乗由船間

ハ水密山碇ニ乗ナレトニ乗由船名ニモ穴ヲ穿ケ

浸水シタマシト思ヒマシ

一 破孔ノ位置ニ地ヲハコローリングノキヨクキヲホネ

揚ケローリングノキヨクキヲナグワリテト思ヒマシ

真 實

右錄取ス

大正十五年十二月十日

冰島防備隊

第十八聯隊 駆逐汽船 榎丸 衝突

事件 査問 會

委員長 海軍 少将

録 明 治 印

出 日

租丸ト接觸前後ノ状況(口代)

第十八號船長 猪瀬正盛

初メ汽船カ船首約一点半(或ニ点カ)位ニ綠燈ヲ認メ
 タルカ距離約ニ千米附近ニテハ綠燈ヲ認メサリ又
 午ニ百位ニテ雙眼鏡ニテ綠燈ヲ認ム。コノ時單艇陣
 距離ニ百五十米ノ本隊一番艇ニ右ニ轉舵シタルヲ以テ各艇
 ソノ通路ニ入ルコトナリシモ三番艇タルト一號艇ノ其ノ回頭点
 ニ至リ轉舵セハ若シ汽船カ近接シ来ルコトアル場合危險ナ
 リト認メ約五十米手前ニテ右ニ轉舵セリ
 コノ時汽船ハ一番艇ノ陰ニアリ認メ得ズ依テ彼艇ニ右轉舵ニテ
 航路ヲ避ケシモノト認識シタルカ一番艇ニ戻リ突然紅燈ヲ現ハシ
 我々右方船首ヲ約二点附近距離又ニ百位ヲ航速シ
 来レルヲ以テ右轉舵一杯ヲ令シ直ニ兩艇接觸停止後後進

毎 頁

原車ヲ命シタル是車ヲ標ハ点シラシタル也 概概ニ直達セザリシ
 ト言フ ニ番航左ニ隣回レ趨ルニ番航ヲ避ルルタメ左ニ
 転航シ一番航々度ヲ出ツルヤ三番航タル十八号ヲ認メタルガ
 タメ直ニ右航航ヲ行ニ後進全速ヲ令セシ也 概概ニ未タ
 發動シ居テサリシ状態ナリト云フ 本航々首ヲ右ヨリ左ニ
 約一点位ノ交角ニテ航過シタルヲ以テ其ノ航首ノ通過ト同時ニ
 航ヲ左ニ轉スルノ令ヲ下シタルガ 操舵取舵ノ十五度附近
 ニ申レシ時左舷後部ト彼ノ航ノ左舷中央部ニ接テ接觸
 シタル也ノナリ
 當時本航ハ前進随力五六節アリシナラン 趨ル亦略々同速力
 ニテ航過シ面航ヲ中央ニ復シ居タリト云フ 右回頭ノ隋勢
 稍、アツシエトハ兩舷接觸前中向ノ海水騰昇状態ニテ明カ
 ナリト云ヒ居レリ

船丸ハ要スルニ一隻ノ延出船ハ順次其ノ前路ヲ行クニシテ
形ハナリトシテ形ノ航跡ヲ以テ避固ニ努メタル如シ

猶船長ハ當時カイレンノ声ト激シテ操舵ノ急ムルニ船楫ニ入り来

レニ事録ニ急ムルノ何等手ヲ下スノ餘裕モナカレトシテ

接觸後救助ヲ要スル候者ニテ各船探照灯ヲ点シテ二番

船ト之ニ近接シテコウカウターニシテ船ノコウカウター

共ニ船員ハ全部兩舷ニ其ノ所持品ノ一部トシテ収容スルヲ得

何等負傷者モ出テナシトシテ幸々幸々同船トシテ其ノ後

二十分ニシテ沈没セリ本船ハ破損ノ別紙ノ面トナリ

東京、神戶、区、接、田、四、マ、ハ、山、科、礼、藏、所、有、船

船長 松本 彌市

当船者直者一等運航セ 奈衣崎、北、八、部

(一三)

海軍省

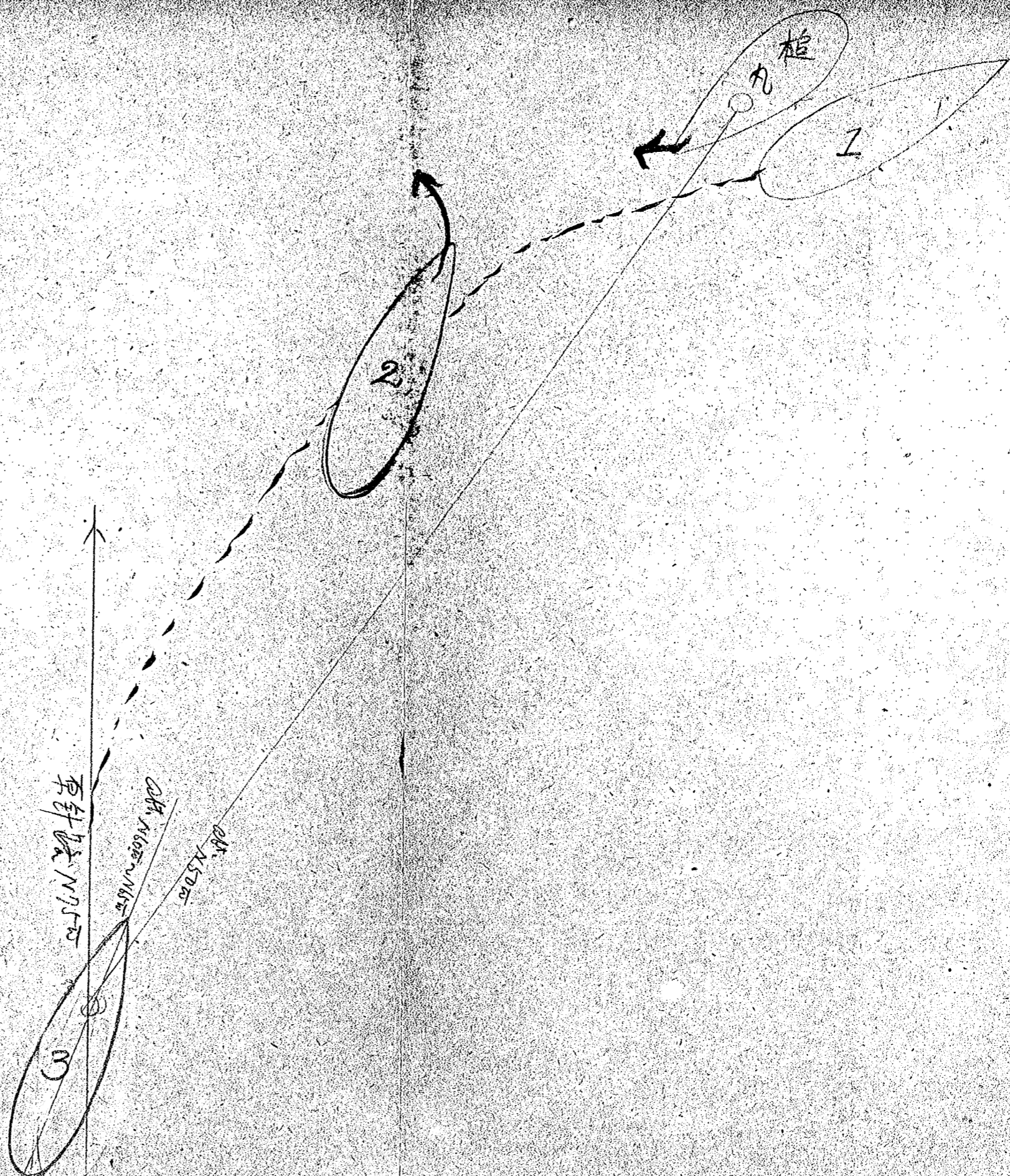
10

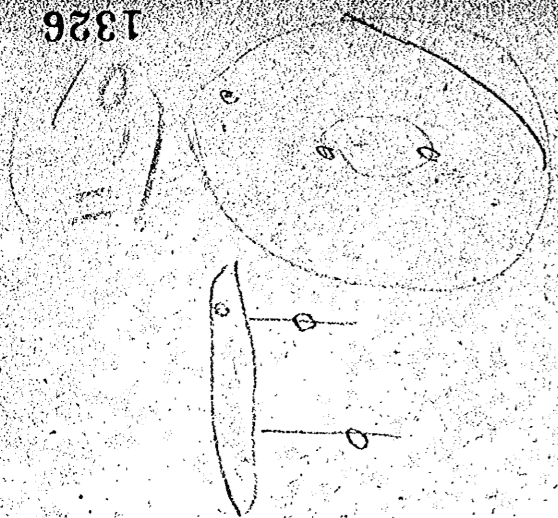
十八号驱逐舰 (飛龍隊)

而航艇之令之十五度回頭之際
一雷航艇之距離本艇右舷船首約一海里
其當時之對勢力

所置

而航艇一杯、而航艇停止、而航艇後進(飛龍隊) (飛龍隊) (飛龍隊)



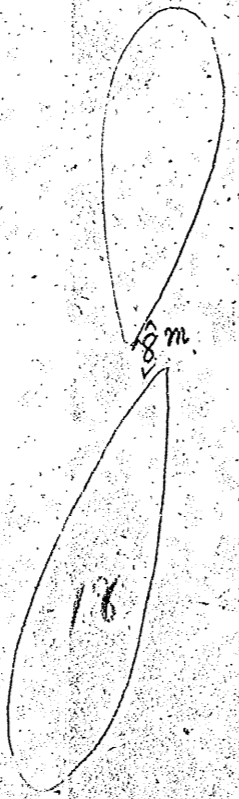


衝突瞬間の状況

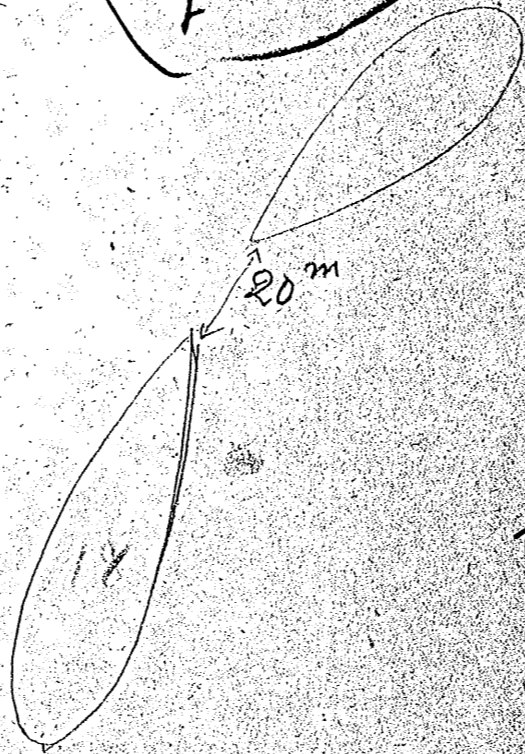
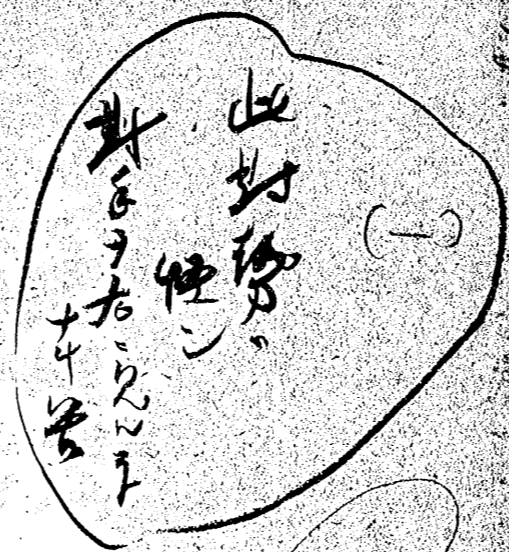
(船長陳述)

24
24
260/6
24
24

(二)



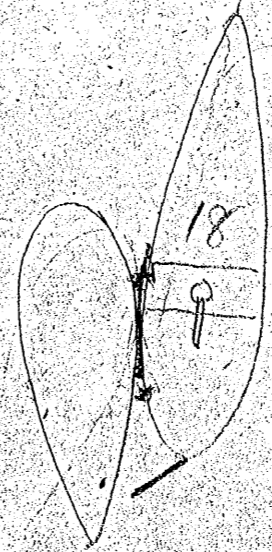
カワツタカシノ報告より要旨を述べ



本船右回頭中

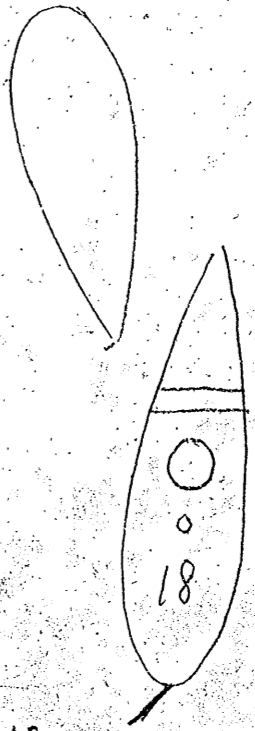
カワツタカシノ報告より要旨を述べ

(三)



衝突瞬間

(四)



要旨を述べ

カワツタカシノ報告より要旨を述べ

(五)



衝突瞬間に於ては、本船は右回頭中、カワツタカシノ船は左舷に舵を切った。

第拾一號艦ト接觸前後状況

植凡船長

当直運轉士

松本彌市

奈良崎庄八郎

一本船六時三十分元山浮標航過巨高左理軒針路
 東イ南有南ニ航進中右舷船首約二莫巨離約三哩後
 ニ白緑燈船三隻ヲ認メ三該船、單縱陣ト推シテ
 毛其儘、針路ニ替、行、者ト誤信シ進航中右舷船
 首約三莫巨、所ニ突然港番船ハ汽笛一音、左時ニ紅燈
 ヲ現ハシタリ以テ本船直ニ短声一発右舷一杯ニ取リ
 航過石中直ニ左舷船首ニ三番艦、緑燈見先毛
 其儘進行スルハ危険ニ付、臨期、所置トシテ短声
 二発左舷一杯ニ取、幸ニ二番艦、右舷側ヲ航

一 杯^ニ取^リ全時^ニ全速^力後退^ヲ命^ジシモ 機関^ハ未^ダ后退^ニ
 二 掛^ラサ^ル内^ニ三番艦^ハ本^船左舷^ニ度^リ行^キタ^ルニ依^リ
 機関^{停止}右舷^{一杯}ヲ命^ジタ^ルモ未^ダ能^ク取^リカ^ガル
 内^ニ三番艦^ノ艦^尾ハ本^船ノ中央^{左舷}ニ接^觸シタ^ル
 モ^ノナ^リ
 其時^{接觸}損^所ヲ調^ベセ^タルモ上^部ニ後^部ノボ^リト^モト^モト^モ
 受^台損^じタ^ル由^テモ 機関室^ニ浸^水激^シキ通^知ア^リ依^テ
 非常^{汽笛}ニ救^助ヲ求^メト^シ全時^ニ端^艇用^意ヲ命^ジ
 浸^水激^甚ニ依^リ危^険ニ付^キ總^員退^船ヲ命^ジ
 第^一大^隊艦^端艇^及本^船端^艇厚^細部^ト所^持品
 一^部収^容シ第^二大^隊艦^ト第^三大^隊艦^ニ乗^取リ
 救^助セ^タリ退^船后^約十^分位^ニ本^船ノ船^首ヲ沈^没シタ^リ